

第45回市民自治推進委員会 産業躍動部会会議録

(敬称略)

開催日時	令和8年 8月26日(水) 18時00分～19時00分
開催場所	登別市役所 2階 第2委員会室
出席者	(部会長) 川田 弘教 (副部会長) 飯尾 真吾 (部会員) 三原 千鶴、山田 則子、石川 克哉 (庁内委員) 服部 仁、北出 怜 (事務局) 大内 拓海、下國 陽、新関 麻亜子 (欠席委員) 鈴木 高士、吉田 裕亮、登山 圭太
議題	(1) 部会長及び副部会長の選任について (2) こどもファースト・外国人住民との共生社会の取り組みについて

【部会長及び副部会長の選任について】

新体制について、部会長に川田 弘教氏、副部会長に飯尾 真吾氏を部会員の互選により選出した。

【こどもファースト・外国人住民との共生社会の取り組みについて】

(事務局)

昨年実施した「登別市市民自治推進委員会に関するアンケート」の結果、市民自治推進委員会で協議したいテーマの提案があり、昨年12月18日に開催された部会長・副部会長会議の中で、「こどもファーストの取り組みについて」及び「外国人住民との共生社会の取り組みについて」の2つのテーマについて、各部会で主体的に取り組んでいくために協議することとなった。

次に、協議の進め方については、こどもファースト・外国人住民との共生社会の視点で住みよいまちづくりを目指すうえで課題となる点を各部会の分野に限らず幅広く抽出して、集まった課題を再度各部会に展開し、その課題を解決するために各部会でどのような取り組みができるかという流れで進めていきたいと考える。

また、補足であるが、「こどもファーストの取り組みについて」及び「外国人住民との共生社会の取り組みについて」の2つのテーマを全体のテーマとしていくが、前任期の際は「子育てしやすいまち」、その前は「健康」がテーマであった。それに続き、今年の4月から、任期までの大きなテーマとして「こどもファーストの取り組みについて」及び「外国人住民との共生社会の取り組みについ

て」全体で考えていこうという大きなくくりがあり、この2つとは別に、それぞれの部会で個別に取り組みたいテーマがあれば各部会で話し合っていくというイメージである。

(部会長)

産業躍動部会としてのくくりではなく、課題を出すということか。

(事務局)

そのとおり、幅広に課題を出していただきたい。

(部会長)

各部会で課題を出して、部会長・副部会長会議で確認し、また部会で考えるということだが、まずは「こどもファーストの取り組みについて」ざっくばらんに日頃思い当たることがあれば発言願う。

(副部会長)

自分自身が市民自治推進委員会の活動にあまり参加していないからかも知れないが、こどもファーストのゴールやあるべき姿がわからない。会社であれば前年度比何%という目標があると思うが、こどもファーストについてはゴール設定や未来設定があるのかわからない。

(事務局)

具体的には出ていなかったが、話の流れからすると、「住みたくなるような街にしていくためにどういったことをするか」「こども・外国人を含めて住みやすいまちにするにはどうしたらいいか」というところを目指しているのではないかと考える。

(副部会長)

勉強や生活、色々な要素があると思う。

(部会長)

登別市における大きな課題は消滅可能性都市と言われていることであつたり、人口減少であつたりだと思う。自分たちの世代の後、後継を担うこどもの出生率が下がっていく中で、こどもたちを増やしていかないといけない。増やすためにはどうしたらいいかというので、こどもファーストということになっていると

思う。せっかくなので外国人の方とコミュニケーションしながらやっていくのがいいのではないかな。

(部会員)

令和7年度の出生率はどうなっているだろうか。各学年1クラスが基本になっていると思うので、まずこどもの数が増えないといけないのが課題だと思う。

(事務局)

新聞の記事によると令和7年の登別市の年間出生数は、144人である。

(部会長)

市内の学校も再編されてきている。

(部会員)

こどもファーストは高校生くらいを想定しているか。

(部会長)

前回協議していた中で、これまではこどもの範囲が中学校くらいという話があったが、ある委員から「一番お金がかかるのが高校生の時期」という話が出た。

(事務局)

これまでの市民自治推進委員会での協議の中で、こどもは18歳くらいまでを指すのがいいのではという話になった経緯がある。

(部会長)

自分には中学生のこどもがいるが、だんだんとお金がかかる。自分たちの生活やライフスタイルがあるので、若い人たちだとなおさら、今ある収入の中でこどもを抱えて育てられるかどうかという不安があると思う。

(部会員)

経済的に2人目、3人目のこどもはやめよう、という話は周りでよく聞く。

(部会員)

市内には、新しく児童館が出来たり手厚くなったと感じるところはあるし、医療費が無料になったりと、自分がこどもを育てていた時代よりはこどもファ

ストかなと感じる。

(部会員)

自分自身は地域で民生委員をしているが、よくある苦情で「こどもがバスケットボールをしていてうるさい」というものがある。そうすると、学校でもミニバスをやっているが、その練習もできない。家でやっても公園でやってもうるさいと言われる。なので、こどもたちがバスケットボールなどを心置きなくできる場所が必要かなと思う。家があまりないところに公園を作ったり、遊んでいい時間設定をしたりすることを考えてもらえたらいいのかなと思った。

また、安心して過ごせる場所が少ない。大人もスポーツクラブには通っているようだが、休日に練習できる場所が少ないのかなと思う。

上川郡の東川町は、ある民間会社が発表した街の住みこちランキングで全国第1位になったと聞いたが、何か秘密があるのだろうか。

それと別に、苫小牧市の人からは、苫小牧市は遊ぶ場がないということで札幌に行く聞いたことがある。登別市も何か人を留まらせるものがあるといいのかなと思う。こどもが楽しく過ごせる場所があるのが大事かと思う。

(部会長)

そういう施設があると遠方からでも遊びに来るし、それで住みやすそうだなとなれば、繋がることもあると思う。

(副部会長)

こどもの運動の練習で、旧大谷高校を借りることがあるが、こどもファーストではない。学校開放は大人の娯楽になっており、予約の競争に勝たないと場所がない状態である。

また、こどもの日々の生活のことで言えば、移動が課題だと思う。地域クラブのための移動や、普段のバスの本数が少ないなどがあるし、苫小牧や室蘭への移動手段に課題があると思う。

共働きも多いので、室蘭市で言うときらんのような、安心して過ごせる場所が必要ではないか。

ほかには、友達と遊ぶ場所が少ないように感じる。自分で安全に移動できる地域になってほしい。ふらっと行ける場所が必要だし、人数が少ないのでやりたいことができない、家庭の事情で送迎のことを左右されているように思う。こどもが少ないのだから、上手くできないのかと思う。

あとは、お金の問題で、制服・部活動の援助や、食事・こども食堂などももっ

とあればいいと思う。環境や経済状況など、こども向けの事業を増やすだけでなく何か対策を考えていければいいかなと思う。

(部会長)

具体的な課題が出てきたと思うが、現在市内に陸上競技場がなくなってしまう、今陸上競技を練習できる場所は岡志別の森運動公園であるが、こちらは親が同伴じゃないと不審者だとかが心配でこどもだけでは行かせられない状況である。そうすると、共働きの家では同伴できないので練習に行かせられないため、こどもたちに練習量の格差ができてしまう。可能性ややる気があっても練習できないということを解消してあげれば、過ごしやすくなるのではないかな。

また、室蘭市の入江運動公園陸上競技場を使わせてもらっていると、室蘭市民は安く使えるが、登別市は当たり前だがお金がかかる。これも、広域連合ということで交通手段や利用料を補助してもらえば、市がお金を出して陸上競技場を作らなくても環境を整えられるのではないかな。

それから、「外国人住民との共生社会の取り組みについて」の課題とも共通していると思うが、外国人は車を持っている人は少ないのではないだろうか。同様に日本工学院の学生も車所有者は少ないかと思う。このまちに楽しめるところがなくても、広域で見れば施設はあるので、交通手段の補助があればいいのではないだろうか。

(部会員)

小中学生にアンケートをとって、できる取り組みを考えるのも課題の一つかと思う。

(副部会長)

本人たちがどう困っているかというエビデンスを取ること・声をちゃんと聞くことが課題ではないかな。

(部会員)

自分も、本人たちの声を聞くのが一番いいかと思う。

(部会長)

それでは、「外国人住民との共生社会の取り組みについて」話していこうと思うが、登別市には、現在もう500人以上の方が住んでいるということである。

(事務局)

ほかの部会でも市内の外国人の人数について話題になったため確認したが、市公式ウェブサイトで公開している令和8年7月末現在で583人であり、ここ数年は確実に毎年増えている。国籍で見るとアジア圏が多くて、インドネシア人が一番多い。

(部会長)

世帯数で見ると522世帯だが、どこの地区が多いか。

(事務局)

それについては公表されておらず、現在調べているところである。

(部会長)

より具体的に、どういう業種にどのくらいの人がいるのかなど情報があるとより考えやすい。

(部会員)

登別東町の商業施設では、ここは日本だよね？と思うくらいに外国人の方を見たことがある。どこの国の方かはわからないが、アジア圏のお客さんが多いように感じた。その地区に住んでいる方に聞いたが、「いつもそうだよ」と言っていた。登別温泉で働いている方もいるが、民泊で滞在している方もいるようだ。

(部会長)

中央町の商業施設でも見かけるが、そこまで多くない印象である。

(部会員)

自分自身も民生委員をしているが、ある地区で一つのアパートに何人も暮らしているところがあり、出入りも頻繁であると聞いた。しかし、地域の人からするとどこで働いているなどの説明や交流もなく、地域のお年寄りには不安に感じているという話は聞いている。相互理解は難しく、地域の行事に誘ったらどうかなどの提案はしている。

(部会長)

今週末は地獄祭りがあるが、外国人の方には協力要請していないか。

(副部会長)

鬼花火は協力要請しているようだ。言葉の問題ではなく、言葉が分からなくても生活しやすいということが必要ではないかと考える。病院、市役所、ゴミの出し方、学校の書類が難しいなどの問題があると思うので、それを解消し、生活しやすくするのが課題ではないだろうか。また、先ほどお話があったように、地域の行事に誘って参加してもらうなども手である。

日本人同士でも隣の人がどんな人か気になるので、外国人だからという壁を外すために、参加させるなどして交流しないといけないのではないか。また、日本人と外国人を、助ける側・助けられる側に分けないほうがいいのかなとも思う。

(部会員)

以前、郵便局で手続きに苦労している様子の外国人の方を見たことがある。サポートしてる日本人と、外国人のお客さんの組み合わせであったが、日本人のサポートの人が一生懸命手伝い1時間以上経って名前を呼ばれていたようであった。日本語だけでなく、外国人の方向けの資料を用意して内容がわかるようにするなど、外国人の方である本人が手続き内容について理解できるようにしないとけないと感じた。

(副部会長)

日本語が分からなくても生活できる仕組みやルールがあればいいと思う。

(部会員)

せめて公共機関だけでもマニュアル化したらいいいのではないかな。

(庁内委員)

市役所だと、住民票を発行する窓口などに外国人対応の仕組みがある。

(部会員)

住んでいる人の国籍が分かっているのだから、A Iでその国の言語に翻訳した資料が簡単に作成できるのではないかな。

(部会長)

国レベル、行政レベルになるかも知れないが、外国人が何を指摘されてスムーズにいかなかったのか、確認して仕組化したり緩和したりしたらよいのではないかな。

(副部会長)

日本工学院の場合、入学したら校内で出張手続きしていると思うが、登別温泉などで就職してもそういったことは行っていないと思うので、登別温泉にも出張手続きの仕組みがあればいいのではないか。また、漁港にも働きに来ている方がたくさんいるように思う。

(庁内委員)

病院では、ポケットクなどを使用し外国人の方の対応を行っていたのを見たことがある。

(部会長)

以前登別ロータリークラブと登別ライオンズクラブで、外国人の方との交流会を行った。呼びかけはしたがなかなか集まらず、人づてに何とか参加者を集めたが、自然に集められる気運を作るのが大切かと感じた。

(事務局)

前年度は連合町内会と市でタイアップし、市内3か所で地元住民と外国人が集まれる場を設けた実績がある。

(副部会長)

今外国人の方はどんどん増えているから、地域全体でどう取り組んでいくのが問題かと思う。例えばごみ捨ての問題については、外国人向けだけに対策を行うのではなく、お年寄りやこどもにもわかりやすいように色分けする、絵を使う、やさしい日本語を使って説明するなど、地域全体で共通のことを行っていくのがいいと思う。

(庁内委員)

確かに、登別市では目につくかもしれないが都会であれば外国人の方が普通に働いていることもあり、対応すべき対象は外国人だけではないかもしれない。外国人だからとかではなく、人としてどうかという問題だと思う。

(副部会長)

そのほうが結果的に外国人の方も、共生生活を充実させられると思う。

(庁内委員)

日本人同士でも気が合う人や気が合わない人がいるので、人と人のつながりではないか。

(部会長)

人のつながりを、外国人だけ・こどもだけで考えるのではなく、登別らしいつながりを作っていくのがいいのではないか。

(庁内委員)

隣に住んでいる人が分からないというのは、外国人だからという問題ではなく、日本人同士でも同じだと思う。また、隣の人と仲良くなりたくない外国人の方もいるのではないか。

(部会長)

交流できる機会をどう作るのかが課題だと感じる。昔だと町内会がそういう場所だったが、今は町内会も苦慮していると感じる。

(副部会長)

町内会なのか、もっと集まりたい別のコミュニティなのか、ツールは変えないといけなと思う。また、日本には名刺文化があるが、それがきっかけで話が始まることもある。登別市で全住民が名刺を持っているとか、登別通貨とか、そういうものがあると点と点が繋がるかもしれない。

(部会長)

「こどもファーストの取り組みについて」と「外国人住民との共生社会の取り組みについて」の2つのテーマに、共有したものが示された気がする。

(部会員)

外国人の方の推移を見て思ったが、国によっては礼拝などを行う方が多いなどの違いがあるので、礼拝する場所がないという理由で増えてない国があるのかと推測した。

(庁内委員)

人口減少を止めることは、日本全体においても難しいと思う。人が少ないとこどもファーストもできないと思うが、人口を増やす・減るのを緩やかにするため

には、域内で経済が回り企業が潤うことが必要だと感じている。登別市は観光の街だから観光客にお金を落としてもらうような取組を勧めていく必要があるのではないか。

(部会長)

前回の会議の中でも感じていたが、経済が潤っていないといけないように思う。補助事業を行っても、継続して稼げる場所がないと人が定着しないのではないか。

(部会長)

酪農も担い手が少なくなっていると聞いているが、どうか。

(部会員)

ある農家の話だが、担い手はいるが結婚していないので後継者がいないという話はある。

(部会長)

漁業についても、魚はいるが、漁をする人がいないとかいう話も聞いたことがある。

(副部会長)

外国人の方が単なる労働力でなく、「ここで住もう、こどもを育てよう」というふうになればいいと思う。外国人が住みやすいということは、こどもや障がい者も住みやすいまちになるし、交通についての問題の解消にも繋がるのではないか。

(部会長)

意見の整理は事務局にお願いすることとしたい。次は、今日の意見を元に部会長・副部会長会議を行うという認識でよいか。

(事務局)

そのとおり。部会長・副部会長会議後、また各部会に協議いただくことを想定している。

(副部会長)

課題を抽出したが、落としどころとしては「誰でもわかりやすい社会」というのが結論かと思う。